



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」
人は誰かのために泣くことが出来る

司祭 パウロ 渡部 拓



を、今でも覚えています。

14年前の3月11日、あの地震が発生した時に、当時神学校への入学を控えていた私は、指導司祭と共に車を運転しておりました。そして時計の針が14時46分を指したとき、突然の大きな揺れと共に、目の前の渡ろうとしていた橋が蛇のようにうねるといふ衝撃的な映像が目に飛び込んできたのです。慌てて来た道を引き返した私たちは、何とか難を逃れることが出来ましたが、その道すがら見える割れたガラス、倒れた壁、一瞬にして崩壊した日常を目の前に、えもいわれぬ恐怖を感じたこと

を、今でも覚えています。その後私も色々大変な思いもそれなりにしましたが、それよりも印象的に残っているのが、自分が行く先々で目にした人々の優しさで強さでありました。水の配給に行けばお年寄りのお手伝いをする青年、他人同士で物資を分け合う姿が見られる所もあれば、ボランティアで訪ねた先では、ご自身も大切な人を亡くされているにもかかわらず、他の悲しむ人に寄り添い、その人のために働く人もいたのです。

聖書には「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙12章15節)という聖句があります。これは私たち人間が他者と一緒に愛を持って生活するために必要な指針であり、簡単に言えば人と「共感」する力の大切さを説いているのだと思

います。しかし人と人が、それも全くの他人同士が「共感」するというのは、それはとても大変なことでもあるのだろうと思います。ましてそれが、自分自身も悲しみや苦しみといった苦難の中にいる時であればなおさらです。しかしながら14年前のあの時大変な状況にあったはずの東日本の地では、この共感する力が溢れていたと思うのです。誰もが悲しみを共有し、しかし一方で本当に些細な喜びを分かち合い、それを希望にしていた。それが生きることにへの、復興への原動力になっていたと思います。

しかし今はどうなのでしょう。もちろん14年が経過した今でも、被災地へ寄り添い共感し、活動を続けている人々が大勢います。私たちの教会だってそうであると思います。でも一方で、日々の報道では14年前の「悲しみ」にはあまり触れられなくなってきた。復興の「喜ばしい」ニュースはこぞって伝えますが、「未だ苦しみや悲しみの内にいる人々の声」は聞こえにくくなっているように思えてなりません。

であるからこそ、私たちは今こそ「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣く」ことが出来る共同体であること、そんなイエスの弟子の在り方を思い起こす必要があるのです。これは何も東日本大震災に限った話ではなく、やはり私たちの教会は世界の「声なき声」を聴き、共感することが出来なければならぬのです。そしてそんな「誰かの声を聴いて共感すること」ということは、大それた何かをするということではなく、それこそどんなに小さなことでも共に喜び、そして悲しみを抱えている人と一緒に泣くということに帰結するのでしょうか。

震災から14年が経ったこの被災の地にある教会共同体として、イエスのみ跡を踏む者として、私たちが何を成していきけるのか。誰の声を聴き、誰と共に喜び泣いていくのかを、今この時だからこそ祈り、考えていければと思います。

そしていつか、全ての悲しみが喜びへと変わることも、祈ってまいりたいと思います。

(秋田聖救主教会牧師)



去る1月18日(土)、各教役者、常置委員、教区内諸委員会、執行機関各グループのリーダー、教区婦人会会長、教区保育連盟会長が一堂に会し、執行機関拡大合同会議が行われました。

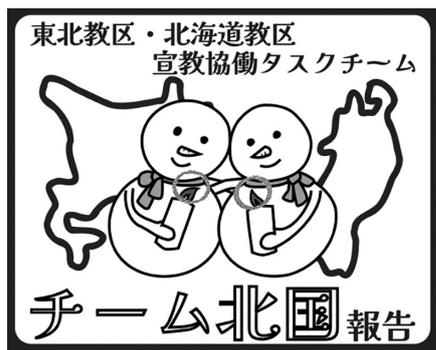
ここ数年、新年の恒例行事となつている同会議は、教区内諸活動の新しい一年のビジョンを共有することが主たる目的となっています。

2025年は、さらに具体化が進捗するであろう北海道教区との宣教協働や、昨秋開催された「東北教区宣教協議会」からの歩みも視野に入れ、午前中はビジョンの共有のための主事会議からの発題、午後はその分かちあいと財政主事・主査からの「2025年度予算決定通知」と事務連絡が行われました。

主事会議からの発題は、「Sense of Ownership」それぞれが当事者意識をもちながら」と題して行われ、またイによる福音書1章1節以下

の系図をもとに、アブラハムの時代からの神の人類への関わりが「契約関係」から徐々に「神の一方的な誓い」、さらには「親と子の愛と憐れみの関係」へと推移していったことが提示され、イエスの時代には、預言者たちの語る「怒る神・憤る神」の姿は消えて、一人ひとりの尊さ、かけがえのなさを訴え続けた憐れみの神、愛の神の姿となつていくことを分かちあいました。そして、この愛の神の姿に感謝と喜びをもちつつ一人ひとりが「当事者意識をもつて」、教区の宣教に携わっていきましようとの呼びかけがなされました。

北海道教区との合併し新しい教区となつても、それで聖職者数、信徒数などが大幅に改善されるわけではなく、財政面においても心配がなくなるわけではありません。むしろ新教区の面積はほぼ倍に広がることで新たな課題も出てくるでしょう。そういうときだからこそ、一人ひとりが使命をもって神と共に歩む当事者であることを自覚しつつ歩んでいきたい、そう願っています。



東北教区

アイリーン 坂水 かよ

2月は「春を待つ月」と言われますが、まだまだ寒い日が続く東北と北海道、春の訪れはもう少し先のようです。昨秋11月、それぞれの教区会では「東北教区・北海道教区宣教協働・新教区設立に向けてのミッション・ステートメント2024」が可決され、東北教区・北海道教区は一つになって、2028年4月の「新教区誕生」を目指します。さて、チーム北国の活動も3年目に入りました。チーム北国コア・ミーティングもこれまで同様に毎月1回対面とオンラインを用いて交互に開催を予定しています。

12月開催の第19回コア・ミーティングでは、合併に向けての行程をより具体的に細やかなものとし、信徒の皆さんにさらなる周知徹底を図ることについて協議しました。

1月開催第20回のミーティングでは2028年までのロードマップと「新教区」のイメージを共有していくことの必要性が話し合われました。

新教区の名前は？「北国教区」「いやいや、雪だるま教区」カタカナ名もあり？その他にも、主教座聖堂と教区事務所はどこに置くの？財政の課題はどうなるの？等々、ワクワクすることだけでなく難しいこともいっぱいありますが、たくさん疑問や不安も、皆さんと一緒に考えていけたら幸いです。

暖かくなる頃には、東北教区・北海道教区共通資料として制作された、宣教協働の絵本『北のあけぼのーさあ、光を灯そうー』が皆さんのお手元に届く予定です。どうぞ楽しみにお待ちください。

(連載のロゴが新しくなります。)



厚岸聖オーガスチン教会伝道所



厚岸大橋を渡った先、厚岸の古い町の中に佇んでいるのが厚岸聖オーガスチン教会伝道所です。1891年の伝道開始のあと、最初の建物は1893年に建てられ、現在の建物は1988年に落成しています。隣接の牧師館は賃貸しています。

2021年の教区会決議により伝道所となり「厚岸聖オーガスチン教会伝道所」が正式名称となります。近隣に家族がお住まいで、年に2〜3回の聖餐式が行われています。



シリーズ わたしの道の光

「わたしの道の光」

盛岡聖公会

ルカ 赤坂 徹



父は中学
校教師だった
ので私も
教師を目指
してました。

高校3年の夏
休みに担任教師から医学部を
目指すように言われ、大きな
方針転換でした。その頃、脳
外科医が颯爽と活躍している
テレビ・ドラマがありました
が、現実のモデルとなる医師
がいませんでした。生と死を
分ける重大な決断がのしか
かってくることを当時は理解
していませんでした。

校教師を担当しながら膨大な
医学研修を両立させてきまし
た。基礎医学から臨床医学へ
の転換期とも言える解剖学実
習も耐えることができました。
全国的な学生運動で、大学病
院をボイコットしていたので、
私は聖路加国際病院小児科を
選びました。

米国留学の道

ワシントンDC総合病院で
は東南アジアや中近東からの
医師が研修に来ていて、仲が
悪いことはなかったのですが、
上下関係は厳しかったんです。
聖公会の大統領が通う教会で

長男は洗礼を受けました。専
門医の研修が可能な病院を探
して、カリフォルニア州スタ
ンフォード小児病院で面接を
受けました。

専門医としての道

スタンフォード大学小児病
院ではアレルギー病、呼吸器
病、膠原病のフェローとして、
スタッフの臨床指導と基礎研
究を担当しました。帰国前に
地元の教会で日本のキリスト
教についてお話しする機会が
与えられました。

帰国後の医師としての道

埼玉医科大学小児科学教室
講師として採用されました。
喘息児のための夏季学校を千
葉県海岸で開催し、医師、看
護師、医学生、看護学生等と
共に15年間活動しましたが、
その後も継続されています。

埼玉で誕生した息子たちと毛
呂山聖霊教会と付属幼稚園に
通いました。私の両親の健康問
題で盛岡市に戻って国立療養
所盛岡病院を初めとして、種々

の医療体制の元で活動してき
ました。聖公会を通じて神様
からの導きが重大な方向転
換の時にいただいたように思
います。お恵みに感謝しつつ。

各教区正義と平和 担当者会・参加報告

正義と平和担当
司祭パウロ 渡部 拓

1月9日から10日にかけて、
東京のナザレの家にて、20
25年各教区正義と平和担当
者会」が開催されました。1
日目は例年通りの各教区から
の報告に加えて、今年は「ア
イヌ問題」「パレスチナ問題」
「原発問題」についての3つ
の発題が行われ、それぞれの
事柄について分かち合いをし
ました。2日目にはさらに管
区の正義と平和委員会が進め
ている各プロジェクトの報告
を聞き、前日の問題と合わせ
てさらに分かち合いを深めて
いきました。

これらを通して今の世界に
は情報が溢れている一方で、
本当に大切な「声」を見落と
してしまうことが多いという
ことを学びました。だからこ
そ教会はそんな小さな声を聞
き分け、神様の正義と平和を
実現するために必要なことを、
発信し続ける必要があるのだ
と思います。

常置委員会報告 (第3回・1月17日)

報告事項

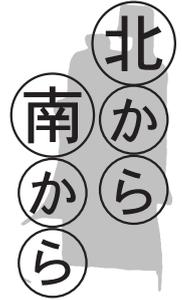
▼常置委員長報告…2025
年度の教区諸委員について教
区主教名で委嘱状を送付、退
任する諸委員には感謝状を送
付した。

主教諮問事項

▼2025年度信徒奉事者(分
餐奉仕協力許可)推挙について
仙台、フランシス、青森、八戸、
盛岡、小名浜、郡山、山形、米沢
の各教会から提出された推薦
書を適当と認め推挙。

協議事項

▼研学資金申請(聖公会神学
院の「信徒の奉仕・召命コー
ス(オンライン講座)」「特任
聖職特別コース(オンライン
講座)」及びウイリアムス神学
館の「伝道師・信徒の奉仕職養
成コース」「体験入学」に関し、
必要な受講費用および交通費
について全額補助する)につい
て、これを承認。▼旅費規程車
移動の16円/kmを6月30日ま
で延長することを承認。▼大
阪教区主教按手式(4月12日)
について、教区代表として赤
坂常置委員長が出席。お祝い
金を5万円とすることを承認。



青森聖アンデレ教会

今年の冬は連日警報級の大雪が降り、道路も家屋もまるで南極にでもいるかのような銀世界につつまれ、ペンギンや白熊が出てきそうな景色になりました。排雪が間に合わずに生活道路はマヒ状態。教会や幼稚園の前では通行する車が雪にはまり、先生方は朝から車押し部隊に変身。疲労困憊の日々でした。一日も早く春が来ることは、北国共通

研修会「奉仕のススメ」part 8 チームミニストリーとなるために

日時：2025年3月30日(日)13:00~15:00
会場：仙台基督教会とZoomによるオンライン
内容：『せみなりお青葉 シリーズ4』の著者、加藤博道主教と畠山秀文さんを囲んで、疑問や不安、希望、実例等を分かち合います。
主催：奉仕職養成グループ

の願いです。

昨年12月22日に長谷川清純主教様が来青して、少し早いクリスマス礼拝が行われました。久しぶりに教会は人であらうな感じが、イエス様のご誕生を共に祝うことができました。主教様が2020年に青森に異動して来られた時はコロナ禍で、会食の機会は一度もありませんでした。礼拝の後、5年ぶりの愛餐会が開かれ、主教官夫妻を含め35名が参加、心温まる交流ができました。お話も笑顔も食事も、盛りだくさんでした。皆の絆が聖アンデレ教会を支えていることを確認した一日でした。降誕日の25日は希望者が弘前昇天教会での合同礼拝に参加し、大きな恵みを受けて帰りました。主に感謝。

仙台基督教会

昨年4月から月1回の頻度で再開していた愛餐会を、11月から毎主日行うこととなりました。聖歌隊の練習も本格的に再開し、クリスマスにはコロナ以降できていなかった祝会を行い、大勢で喜びを分かち合うことが出来ました。

今年1月からは礼拝後にチャントの練習を始め、もう間もなくコロナ以前の日常を取り戻そうとしています。チャントがあると礼拝の雰囲気もひと味変わり、歌えるようになるのがとても楽しみです。

さらに喜ばしいことに、2月9日に、なんと3名の方が洗礼を受けられ、うち2名が堅信の恵みに与り、聖堂内は大きな喜びに満たされました。今年の大斎節は、そうした喜びの余韻にひたりつつ、主のご復活までの準備の期間を過ごしてまいりたいと思います。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

1月22日の水曜喫茶は参加者5名で、快晴。関係の皆様からの励ましの手紙と差し入れに感謝しつつ明るいスター



トとなりました。顔を合わせれば1カ月間のご無沙汰話に花が咲きます。会場の「新地町勤労青少年ホーム」周辺の放射線量は比較的低いのですが、福島市の駅前では毎日0.1マイクログシーベルト台の数値のままです。いつになったら下がるのでしょうか。実は身近な線量計から目を離せない日々が続いているのです。

(リーダー 浅原 和裕)

3月2日は「聖公会生野センターのため」の主日です。大阪市生野区で地域と共に歩む働きを覚え、献金をお助けください。

3月逝去者記念聖餐式

3月19日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式・説教 長谷川清純主教

司祭 ペテロ山本 秀治

司祭 ペテロ松坂 勝雄

司祭 パウロ村上 秀久

宣教師 Miss Flora M. Bristowe

1974年3月12日逝去

1993年3月9日逝去

1942年3月13日逝去

司祭 パウロ林 由三
1970年3月15日逝去
司祭 サムエル植松 謙爾
1978年3月19日逝去
司祭 テモテ佐藤 光道
2016年3月23日逝去

東日本大震災14周年記念の祈り・記念講演会

2025年3月11日(火)

14:15~15:00 記念の祈り
場所：仙台基督教会・盛岡聖公会・秋田聖救主教会・郡山聖ペテロ聖パウロ教会・Web配信
15:10~17:00 記念講演会
場所：仙台基督教会・Web配信

「まずは防災」備えてから祈れ
講師 島田 明夫 氏 (東北大学名誉教授)

あけぼの2月号訂正

4面左下 東日本大震災14周年講演会案内欄、講師紹介の記載に誤りがありました。訂正し、お詫びいたします。

誤 「内閣府火災・防災エキスパート」
正 「内閣府火山・防災エキスパート」